

平成15年度 病害虫発生予察 特殊報 第1号

病害虫名： プラタナスグンバイ
Corythucha ciliata (SAY)

対 象： プラタナス

1. 特殊報の内容

プラタナスグンバイによるプラタナスへの被害と分布拡大を都下で確認した。

2. 発生経過

- (1) 本種の我が国での発生は、2001年9月に愛知県名古屋市の港湾地域に植栽されていたプラタナスで初めて確認された。その後、同年10月には東京都港区、神奈川県横浜市中区、静岡県清水市、愛媛県松山市、福岡県北九州市の港湾地域や周辺の市街地でも確認された。いずれも、発生密度は低かったと報告されている。
- (2) 2003年9月に都建設局第3,第4建設事務所から中野区、文京区内の街路樹として植栽されているプラタナスの葉を吸汁害している虫が同定依頼のため病害虫防除所に送付された。立川市でも葉が白化する現象が2002年秋に見られていたが、2003年7月頃になって再び目立っていた。このため8月にプラタナス(モミジバスズカケノキ)を調査したところ多数のグンバイムシ幼・成虫を葉裏より採集した。中野区および文京区で採集された個体もこれと同種であった。
- (3) 立川市で採集した幼・成虫の写真を埼玉大学教育学部生物学研究室、林正美博士に送付したところ標記と同定された。
- (4) 現在までに本種のプラタナスの被害を確認した地域は以下の通りである。港区、新宿区、中野区、文京区、渋谷区、東村山市、小平市、東大和市、立川市、八王子市、青梅市(第1図)。調査未実施地域も多いが、主に街路樹として利用されているプラタナスで本種は都下広く分布を拡大していると考えられる。

3. 形態 (第2図;成虫・幼虫)

- (1) 体長:雌成虫約3.7mm,雄成虫約3.5mm。
- (2) 成虫は全体的に乳白色,頭部は胸部の帽状部に覆われて見えない。帽状部下方の前胸背板は黄褐色。前翅のやや前方の中央よりに明瞭な黒褐色紋を有する。
- (3) 終齢幼虫は黄褐色で頭部全体,前胸背の一部,翅芽の基部および腹部中央は暗色を呈する。頭部背面,腹部背面中央に太くて鋭い棘状の突起を有する。

4. 生態・分布

- (1) 北米原産。近年ヨーロッパや韓国に侵入し,分布を拡大している。プラタナスのほかクルミ科,ブナ科,クワ科,マンサク科,スズカケノキ科,トウダイグサ科,カエデ科,モクセイ科で寄生の記録がある。
- (2) 1世代に1~2ヶ月を要し,アメリカでは年2世代チリやイタリアでは3世代を繰り返す。都下でも3世代ほど繰り返すと思われる。
- (3) 粗皮下などでまとまって成虫越冬する(林博士私信)。立川周辺のプラタナスでは10月中旬には樹幹

